



はじめての野外活動!
ボスの安全
サバイバル術

沖縄県総合運動公園
体験活動安全管理マニュアルより

企画運営アドバイザー
福島誠司

FIELD GUIDE: SAFETY FIRST



KEY
LESSON!

ADVENTURE
NOTES

待て待て。
体験は『生きる力』を育むが、
悲しい事故が起これば
全て台無しだ。
安全という土台があって
こそその冒険なんだよ。



REMEMBER
THIS!

SAFETY
CHECK

SAFETY
CHECK

体験による生きる力

ヒヤリハットや事故を毎回検証するが、
実は事故のほとんどは
『プログラムディレクターの判断ミス』…
つまり人災(ヒューマンエラー)で
起きているんだ。



高いお金を払ったから安全、
ボランティアで無料だから危険、
ではない。

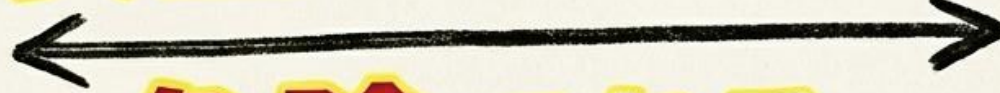
リーダーの判断が、
みんなの命を守る。

安全管理の絶対ルール



安全

安全でなければ、



危険である。



危険



『たぶん大丈夫』は通用しない。
想定できる危険を予知し、
徹底的に対策を講じることが
我々の仕事だ。

重要!

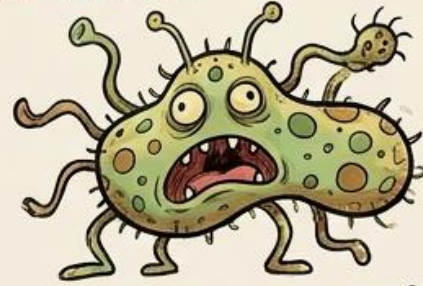
モンスター大図鑑

自然の魔物 - 自然環境の危険



天候、台風、落雷、潮、リーフカレント、
毒を持つ動植物

生物の魔物 - 生物的な危険



病気、食中毒(レプトスピラ)、
物理的な怪我(滑る、転ぶ)

人為の魔物 - 社会・人為的な危険



人間関係のトラブル、いじめ、
刃物の誤用、交通事故、指導者の過信

心理の魔物 - 心理的な危険



パニック、閉所恐怖症、
当日の健康不安、経験値のギャップ

敵を知らないと、
戦えないね…!



Step 1: 企画側のリスクチェック

目的・テーマに…

無理はないか？

対象者の設定に…

無理はないか？

活動プログラムに…

無理はないか？

指導者のスキルに…

無理はないか？

場所・移動手段に…

無理はないか？



計画段階での配慮が、
事業の成否だけでなく
『安否』の鍵を握るんだ。

1年前

1ヶ月前

直前

- ✓ 通信手段(電波)の確認
- ✓ エスケープルート(車の入れる場所)
- ✓ 病院・警察の場所



同じ季節・条件で
下見ができれば
理想!

通常の下見。
危険箇所の
チェック!

川や海は一瞬で
状況が変わる。
直前チェックも必須!





『絶対に安全』なんて
誇大表現はNGだ。
どんな危険が伴うか、
保護者にきちんと伝えて
同意を得る必要がある。



- 広報文書だけで
契約しない。
- 詳細な「募集要項」と
「同意書」を用意する。
- 免責同意書は
「自己責任(OWNリスク)」
の意識を高めるため。



気象と中止基準



- 「天気が良くても**波浪注意報**なら海プログラムは**即中止!**」
- 過去1週間の天気を把握せよ (数日前の豪雨で崖崩れの危険あり)。

移動時の罠



「意外とおそろかになるのが、移動時の安全管理だ。」

- プログラム終了後の移動、山道から交通量の多い道路に出る瞬間が一番危ない!

参加者の安全管理①：人数の把握



リーダー1人で全員を監視するのは不可能だ。
『バディーシステム』を使って、
お互いを確認させよう。

いかなる場合でも、
参加者の人数を把握して
いなくてはならない。

参加者の安全管理②：「弱者」の把握



「弱者」とは悪い意味ではない。体力的に弱い子や、怪我をしそうな雰囲気の子のこと。

理屈ではなく「経験とカン」が意外と当たる。

あの子、靴紐が解けてるし疲れてそう…
僕が横について歩きます！

参加者の安全管理③:「心の安全」を守る



物理的な怪我、
転倒、虫刺され

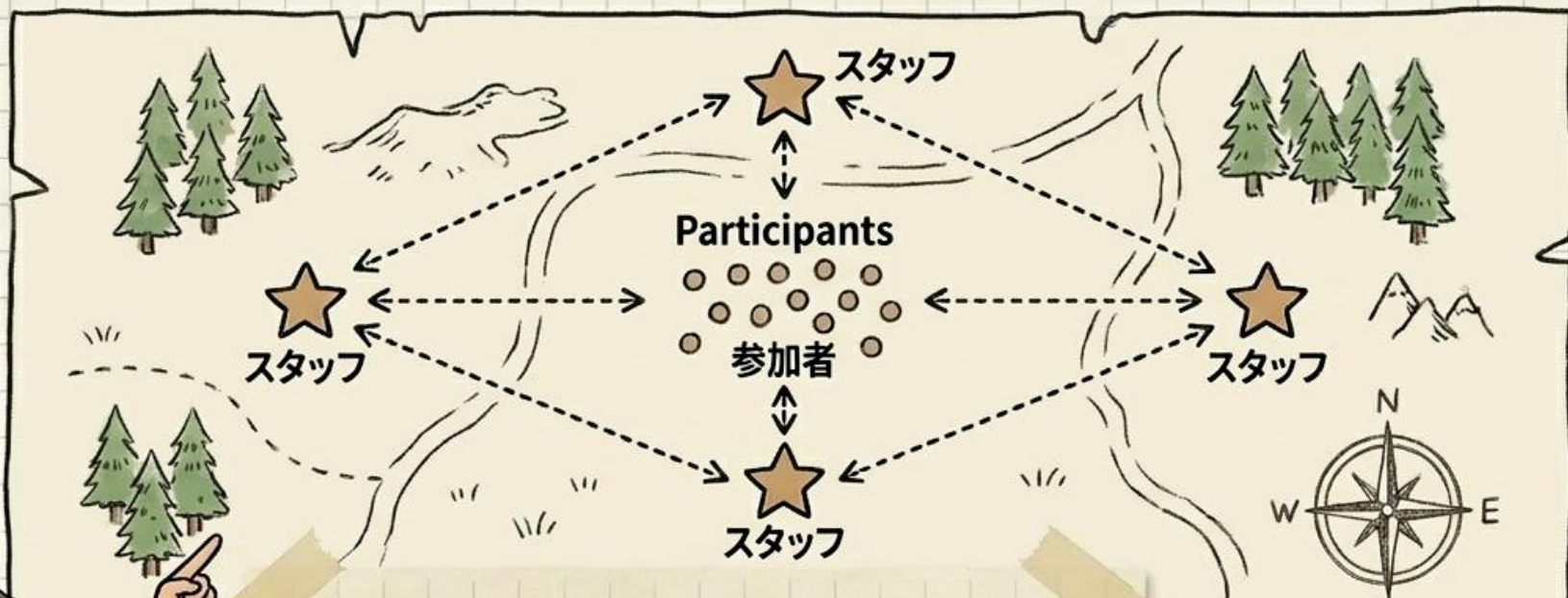
いじめ、孤立、
スタッフの言葉による
精神的ダメージ

体の怪我だけじゃない。
心の動きにも十分な配慮が
必要なんだ。

活動が深まるにつれ、
見えにくい「いじめ」や
「心の痛手」が発生する。

スタッフのちょっとした
言葉が、精神的ダメージを
与えることもあるので要注意。

スタッフの鉄則：決して1人にしない



どんなプログラムでも、原則1人での指導は避ける（最低2名以上）。

常に他のスタッフの位置を確認し、いつでもコミュニケーションが取れる状態を作る。

- トランシーバー
- 携帯電話
- 目視での合図

最重要の盲点：指導者自身の安全と健康



もし君が倒れたら、
誰が子供たちの
命を守るんだ？



指導者自身が無理をしてはいけない。
スタッフの健康管理もチームの役割。
常に万が一を想定し、冷静に判断できる頭を保つこと。

参加者と一緒に！KYT（危険予知トレーニング）



危険の発見：
どんな危険が
隠れているか？



重要ポイント：
特に一番危ないの
はどこか？



私たちはこうする：
みんなで実行する
行動目標を決める



私ならこうする：
具体的な対策を
立てる

危険な場所を教えるだけでなく、
参加者自身に『気づかせる』ことが
最強の防御になる。



もし事故が起きてしまったら

事故は全く予想していない時に起こる。
「想定外」では済まされない。

指導者が焦れば、
判断を誤り被害が拡大する。

どんなベテランでも
目の前で事故が起きれば
動揺する。
だからこそ、次に示す
『初動ルール』を頭に
叩き込んでおくんだ。

対策を講じても
事故は起きる
という認識を
もつこと!



1

落ち着く - 深呼吸。
冷静な判断が命を左右する。



生存者の初動で
被害を最小限に
抑えること!



2

自分自身の安全確認 -
2次災害を防ぐ。自分が巻き込まれたら誰も助けられない。



3

事故者以外の安全確保 -
事故者に気を取られがちだが、残りの参加者を
安全な場所へ待機させるのが先!



この3つをクリアしてから、
初めて救助に向かう!



事故発生

応急処置&人員配置

現場責任者へ連絡

搬送・病院の
手配

警察・消防へ
連絡(119/110)

保護者へ連絡

 
記録・写真・
状況メモ

直ちに処置すべき状況: 心臓停止、呼吸停止、意識障害、大出血

すべては、最高の笑顔で家に帰るために

Challenge by Choice!
(チャレンジ・バイ・チョイス)



安全管理は、冒険を邪魔するためのルールじゃない。みんなで最高の体験をするためのチケットだ。さあ、胸を張ってリーダーを務めてこい!

はい!
準備万端で
行ってきます!

